

# 令和4年度 越前おおの型食・農業・農村ビジョン推進委員会

日時：令和4年10月14日（金）

午後7時より

場所：結とぴあ302号室

## 1 開 会

## 2 協議事項等

(1)越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（前ビジョン）の進捗状況等について

資料1

・越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（前ビジョン）の実績について

(2)越前おおの食育推進計画の進捗状況等について 資料2

・越前おおの食育推進計画の実績について

(3)越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（新ビジョン）について 資料3

(4)その他

## 3 閉会

## 越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（平成29年3月改訂）

## ○ビジョンの体系

基本理念 「越前おおの型の農業」の新たな展開		目指す姿 魅力あふれ活力ある農業と農山村	
		基本方針	基本施策
		農業と農山村の活性化対策	①農山村の活性化[重点施策] ②農山村や農業が持つ多面的機能の維持・発揮 ③交流型農林業や移住・定住の促進
		多様な経営体の共生による農業の振興	①多様な担い手の確保と育成 ②農業者の経営体質の強化[重点施策] ③畜産の振興
		農林産物の総ブランド化の推進	①環境調和型農業の推進 ②特産作物のブランド力の強化 ③園芸作物の生産促進[重点施策] ④農林産物・農林産物加工品の販路拡大 ⑤安全安心で消費者に信頼される農林産物の提供 ⑥地産地消の推進
		農地の適正な管理と農業基盤整備の推進	①優良農地の確保と適正管理[重点施策] ②農業生産基盤整備の促進
		鳥獣害のない里づくりの推進	①効果的な防止対策の推進 ②地域ぐるみでの有害鳥獣対策の推進[重点施策]

## 越前おおの食育推進計画（平成29年3月改訂）

資料2

## ○計画の体系

基本理念	基本目標	基本方針
食 守	「みんなで食守！笑顔でいただきます」運動の推進	①食事を楽しむ心を育む
	規則正しい食生活習慣の定着	②適切な食生活習慣を身につける ③食べ物を選ぶ力を育み、栄養バランスのとれた食生活を確立する
	伝承料理などの食文化の普及と伝承	④食べ物の生産や流通への関心を高め、地産地消を推進する ⑤伝承料理などの食文化の普及とその伝承を推進する
	感謝の心を育む	⑥「食」を大切にすることを育む ⑦自然の恵みや生産者への感謝の心を育む ⑧安全で安心な食生活や環境との調和を推進する

基本方針1 農業と農山村の活性化対策

内容	ビジョン策定時(平成27年度)	令和3年度目標	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
活性化に取り組む集落数	19団体	32団体	21団体	22団体	22団体	22団体	22団体
間伐材の搬出材積	24,509m <sup>3</sup>	28,000m <sup>3</sup>	33,251m <sup>3</sup>	34,434m <sup>3</sup>	30,568m <sup>3</sup>	34,203m <sup>3</sup>	33,421m <sup>3</sup>
農山村ビジネスの開業数の累計	2軒	4軒	3軒	3軒	3軒	3軒	3軒

基本方針2 多様な経営体の共生による農業振興

内容	ビジョン策定時(平成27年度)	令和3年度目標	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
認定農業者の経営体数	個人：48人 法人：29法人	個人：50人 法人：32法人	個人：43人 法人：30法人	個人：41人 法人：30法人	個人：39人 法人：32法人	個人：38人 法人：33法人	個人：40人 法人：33法人
新規就農者の累積人数	22人	32人	25人	26人	28人	28人	28人
農業への参入企業数	—	1企業	0企業	1企業	1企業	0企業	0企業

基本方針3 農林産物の総ブランド化の推進

内容	ビジョン策定時(平成27年度)	令和3年度目標	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
環境調和型農業の取組面積	JAS : 8人/17.3ha 県特裁：76人/252ha ※うち水稲84ha	JAS : 10人/20ha 県特裁：90人/350ha ※うち水稲110ha	JAS : 5人/11ha 県特裁：88人/334ha ※うち水稲92ha	JAS : 4人/7.3ha 県特裁：79人/344ha ※うち水稲101ha	JAS : 4人/7.3ha 県特裁：83人/335ha ※うち水稲96.5ha	JAS : 4人/7.3ha 県特裁：74人/364ha ※うち水稲103ha	JAS : 3人/3.8ha 県特裁：63人/385ha ※うち水稲98ha
農業用機械などの購入を支援した累計数	12件	100件	46件	51件	58件	65件	70件
特産作物の作付面積	里芋 107ha ナス 3ha ネギ 33ha キク 13ha	里芋 130ha ナス 13ha ネギ 40ha キク 16ha	里芋 94ha ナス 3ha ネギ 29ha キク 12ha	里芋 88ha ナス 2ha ネギ 27ha キク 12ha	里芋 84ha ナス 2ha ネギ 24ha キク 11ha	里芋 79ha ナス 2ha ネギ 23ha キク 10ha	里芋 72ha ナス 2ha ネギ 23ha キク 9ha
農林産物加工品の開発を支援した累計数	—	8品目	15品目	16品目	16品目	38品目	41品目
「越前おおの里の恵み」「越前おおの産地保証」登録者数	里の恵み 37人 産地保証 110人	里の恵み 65人 産地保証 160人	里の恵み 45人 産地保証 113人	里の恵み 35人 産地保証 126人	里の恵み 35人 産地保証 129人	里の恵み 39人 産地保証 129人	里の恵み 34人 産地保証 133人

基本方針4 農地の適正な管理と農業基盤整備の促進

内容	ビジョン策定時(平成27年度)	令和3年度目標	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
耕作放棄地の再生累計面積	1.4ha	2.3ha	1.7ha	1.9ha	2.8ha	4.6ha	4.9ha
地域で設置された自然環境に配慮した施設の設置数	11カ所	18カ所	12カ所	12カ所	12カ所	12カ所	12カ所
実農道延長に対する舗装済の延長の割合	88.7%	90%	90%	90%	90%	90%	90%

基本方針5 鳥獣害のない里づくりの推進

内容	ビジョン策定時(平成27年度)	令和3年度目標	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
有害鳥獣の農作物への被害状況	イノシシ 3,821千円/15.06ha サル 1,110千円/1.61ha 中獣類 838千円/1.47ha	イノシシ 2,670千円/10ha サル 780千円/1ha 中獣類 580千円/1ha	イノシシ 2,181千円/2.56ha サル 258千円/0.62ha 中獣類 2千円/0.01ha	イノシシ 1,460千円/1.38ha サル 251千円/0.76ha 中獣類 1千円/0.01ha	イノシシ 689千円/1.56ha サル 796千円/1.32ha 中獣類 244千円/0.13ha	イノシシ 609千円/0.59ha サル 2,089千円/1.32ha 中獣類 249千円/0.08ha	イノシシ 498千円/1.88ha サル 382千円/0.33ha 中獣類 0千円/0.05ha
獣害防止柵の延長	170,000m	184,000m	173,039m	175,639m	177,589m	184,609m	185,309m

基本目標1 「みんなで食守！笑顔でいただきます」運動の推進

数値目標	基準値 (27年度)	目標値 (令和3年度)	実績値				
			(29年度)	(30年度)	(元年度)	(2年度)	(3年度)
「食育」に関心を持っている人の割合	—	90%	—	—	—	—	—
「食育」を実践していると思う人の割合	—	50%	—	—	—	—	—
「食育」に関する教室への延べ参加者数	(生涯学習課) 2,573人 (健康長寿課) 4,031人 計6,604人	7,100人	(生涯学習課) 2,426人 (健康長寿課) 4,032人 計6,458人	(生涯学習課) 1,852人 (健康長寿課) 3,749人 計5,601人	(生涯学習課) 1,238人 (健康長寿課) 3,574人 計4,812人	(生涯学習課) 254人 (健康長寿課) 1,723人 計1,977人	(生涯学習課) 305人 (健康長寿課) 1,869人 計2,174人

基本目標2 規則正しい食生活習慣の定着

数値目標	基準値 (27年度)	目標値 (令和3年度)	実績値				
			(29年度)	(30年度)	(元年度)	(2年度)	(3年度)
朝食をほとんど食べない小中学生の割合 (※11月調査)	2.70%	0%	2.86%	3.80%	3.10%	4.00%	4.50%
朝食をほとんど食べない成人の割合	—	10%	—	—	—	8.2%	—
適正体重に関心のある人の数	1,457人	1,850人	1,775人	1,814人	2,141人	902人	1,118人
栄養バランスなどに配慮した食生活を送っている市民の割合	36%	65%	—	—	—	29.10%	—

基本目標3 伝承料理などの食文化の普及と伝承

数値目標	基準値 (27年度)	目標値 (令和3年度)	実績値				
			(29年度)	(30年度)	(元年度)	(2年度)	(3年度)
学校給食における食材の総使用量(重量)に占める地場食材(市産)の使用量の割合 (※11月調査)	41.40%	43%	35.20%	29.80%	28.90%	26.50%	23.70%
(新)日頃から地場産農産物の購入・使用を心がけている人の割合	—	50%	—	—	—	—	79.50%
地元食材を使用した料理や地元で伝わる料理に関する料理教室の開催数	24回	30回	(生涯学習課)46回 (健康長寿課)1回	(生涯学習課)35回 (健康長寿課)2回	(生涯学習課)41回 (健康長寿課)1回	(生涯学習課)21回 (健康長寿課)0回	(生涯学習課)14回 (健康長寿課)0回
食に関する「越前おおの水をたべるレストラン」への延べ登録件数	—	50件	22件	22件	22件	22件	22件
食に関するイベントの入込者数	265,500人	282,000人	210,000人	220,600人	254,500人	0人	0人

4 感謝の心を育む

数値目標	基準値 (27年度)	目標値 (令和3年度)	実績値				
			(29年度)	(30年度)	(元年度)	(2年度)	(3年度)
ごみ減量に関する講座の参加者数	370人 (過去3年平均)	500人	374人	319人	234人	268人	126人
家で食事をするときに「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする小中学生の割合	67.70%	70%	68.15%	65.30%	—%	(94.00%) 「食事をするときに」という設問だったため学校が含まれている。【大野市独自調査】	—%
保育所で育てた農作物を用いた食事回数	24回	24回	52回	80回	73回	57回	80回
有機JAS対象面積	17.3ha	20ha	11.1ha	8.1ha	8.1ha	8.1ha	3.8ha
福井県特別栽培農産物認証制度対象面積	252ha	350ha	334ha	343.5ha	342ha	364ha	385ha

## 《課題》

- ▶ 地産地消に対する消費者の意識改革を図る必要がある。
- ▶ 誰もが農業に取り組む機会を作るとともに、園芸作物の生産振興を図り、新たな生産者を確保する必要がある。
- ▶ 儲かる農業を目指し、①消費者ニーズに則した少量多品目の園芸作物の生産を促進する必要がある。②経営規模の拡大を図る必要がある。
- ▶ 農業のイメージを変える必要がある。
- ▶ 少子化や高齢化が進んだことによる担い手、後継者不足のため、スマート農業などによる省力化と、集落を超えた広域化や協業化を推進する必要がある。
- ▶ 担い手への集積と集約や、圃場の整備により、農地を効率的に維持管理する必要がある。

## ★魅力ある農業経営の実現に向けての取り組み（R4から5年間）

### 《特に強化する取り組み》

### 「食」分野

【「食守」が引き継がれているまち】

地産地消に対する消費者の意識改革

食べ物の生産への関心や自然に対する感謝の心を育む

「食育」を着実に推進するため「食守」の考え方を広める

伝承料理などの食文化の普及とその伝承

### 「農業」分野

【次世代技術を生かし多様な担い手の活躍で引き継がれている農業】

儲かる農業に視点をおいた農業経営

環境調和型農業の促進

次世代農業の促進

ブランド力の向上と販路拡大

付加価値の高い園芸作物の生産拡大

農業に対する意識改革

### 「農村」分野

【多様な人材の取り組みで引き継がれている活力ある農山村】

農地の集積・集約

農林業体験を通して農林業に対する意識の向上

各種支援制度による農地の保全管理

次世代農業の促進

多様な人材による農業農村の多面的機能の維持・発揮

▶ 地産地消の理解を深めるため、生産に関する関心や相互理解を促進する

R4	R5	R6~R7	R8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者と学校・保育所・認定こども園・介護施設などの需要と供給のすり合わせ</li> <li>・学校教育の中で、野菜を育て食するなどの体験活動を行う</li> <li>・関係者の連携で、地場産野菜の生産・販売・消費の好循環を生み出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食や保育所・認定こども園・介護施設などで使用する地場産野菜の生産量を増やす</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食や保育所・認定こども園・介護施設の給食で使用される食材のうち地場産野菜の使用量を増やす</li> <li>・地場産野菜を地元で消費する</li> </ul>

地元産農林産物の地元消費を拡大する

《目指す姿》

「食と農で未来へつなぐ越前おおの型農業」

▶ 大野市の気候や風土に合った、園芸作物の生産拡大を促進する

R4	R5	R6~R7	R8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少量多品目の園芸作物生産者の育成</li> <li>・女性や若者など誰もが、農業体験や栽培講座など農業に取り組む機会を作り新たな生産者の確保を図る</li> <li>・里芋やネギなどの特産作物の生産にかかる機械導入補助など労働の負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林産物の消費者のニーズが生産者に届く仕組みづくりの創出</li> <li>・体力のない女性や高齢者も使いやすい機械や取り組みやすい仕組みの導入支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸作物生産者を増やす</li> <li>・販路拡大に伴い園芸作物の出荷量を増やす</li> <li>・里芋やネギなど作付面積が維持される</li> </ul>

労働に見合った対価を得る

▶ GAP、福井県特別栽培農産物認証制度などに裏付けされた質の高い農林産物で、差別化を図り、中部縦貫自動車道の県内全線開通などの機会をとらえ、関係機関・関係団体と連携を図りながら販路拡大を目指す

R4	R5	R6~R7	R8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・GAP、福井県特別栽培農産物認証制度などの取得の促進</li> <li>・少量多品目の園芸作物生産者を育成し農林産物直売所などへの新たな園芸作物の供給</li> <li>・中部縦貫自動車道を活用した流通を視野に、中部圏での大野市産野菜の知名度アップを図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販路拡大に向けた6次化の促進</li> <li>・二酸化炭素の排出を抑制する機械への切替えに対する支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド化された付加価値の高い農林産物が多く流通する</li> <li>・カーボンニュートラルへの働きかけ</li> </ul>

▶ 多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度の有効活用で、集落単位の農村の保全管理を促進する

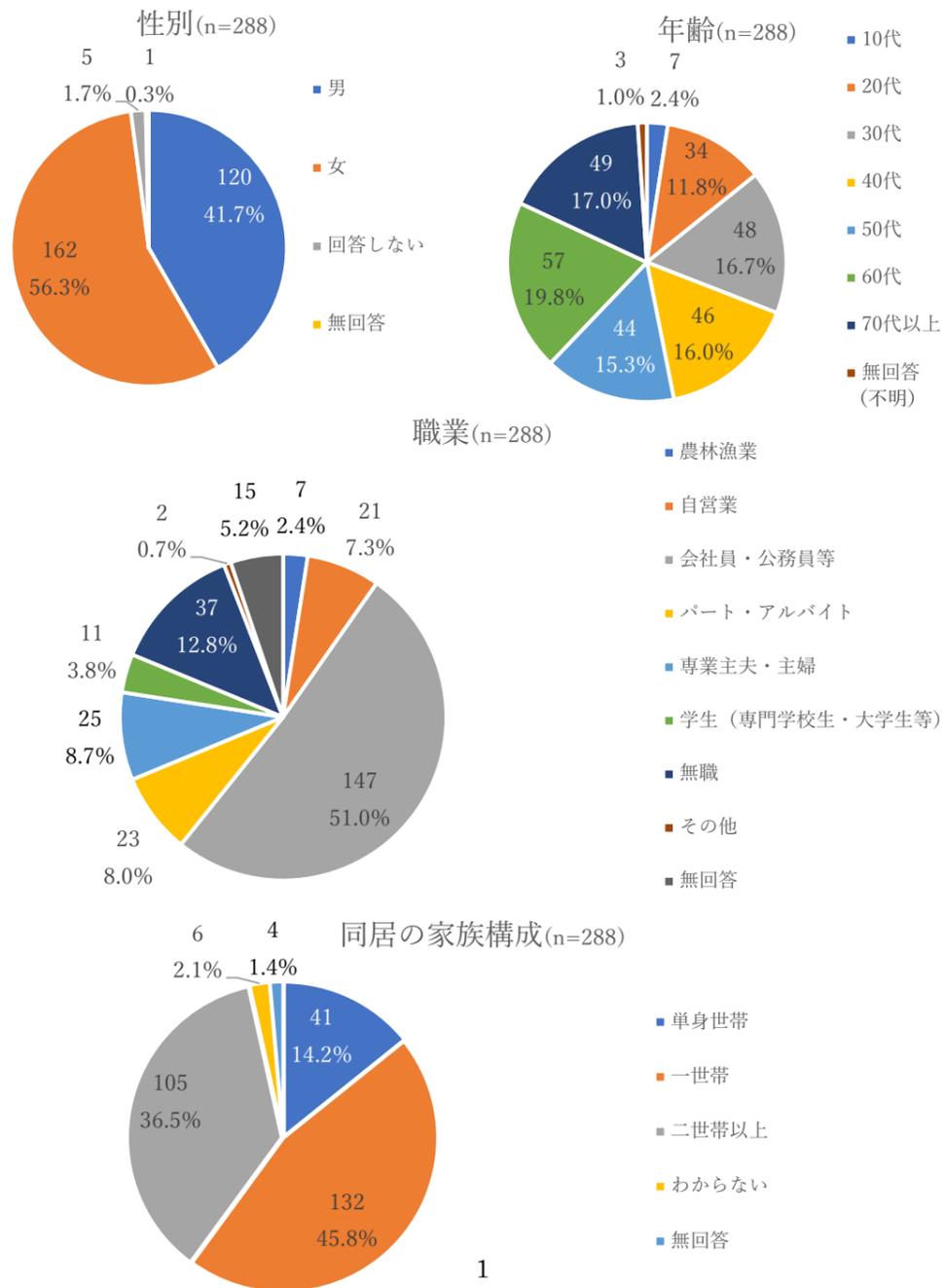
R4	R5	R6~R7	R8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の担い手への農地の集積や集約を促進</li> <li>・誰もが農山村の維持に取り組むために、自動草刈り機の導入などの労働の負担軽減を図ることへの支援</li> <li>・獣害防止柵の設置など集落を超えた広域化や協業化への促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農山村の維持に対し保全の重要性などの意識を持つために農林業体験の開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の荒廃や不耕作地の増加を抑える</li> <li>・生産者だけでなくみんなで農山村を支える気風を維持する</li> </ul>

大野に住み続ける

# 食関係アンケート (大人)

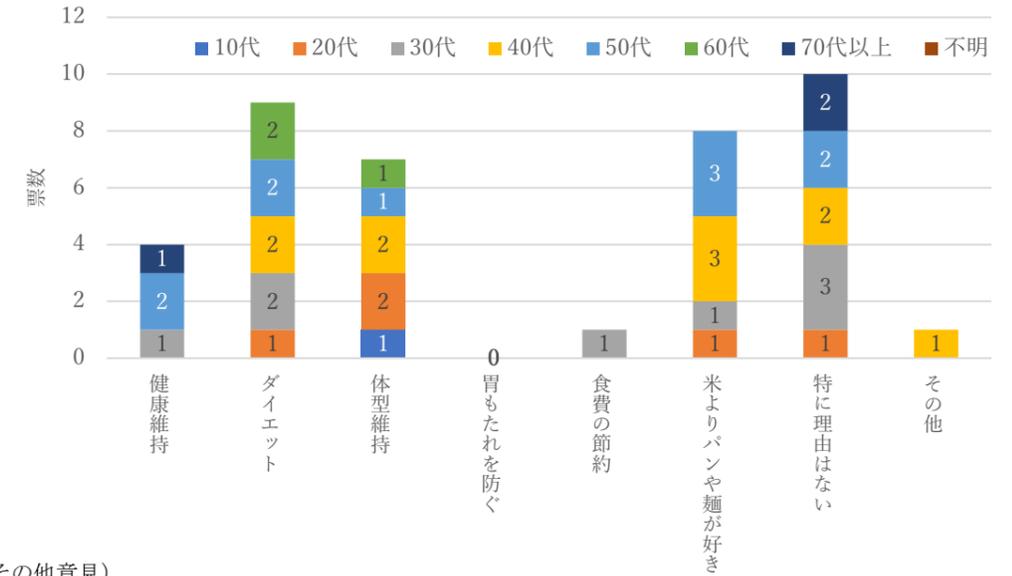
※調査結果の各グラフ中に記載しているnの値は、各質問に対する回答者数であり、比率算出の母数である。ただし、複数回答できる質問については、nの値は「対象者属性」中に示されている回答者数かつ比率算出の母数としており、対象者を限定している質問については、nの値はその対象者数かつ比率算出の母数としている。

## 対象者属性



## 補足※米を食べている人が食べない場合の理由

全体 (総数40)

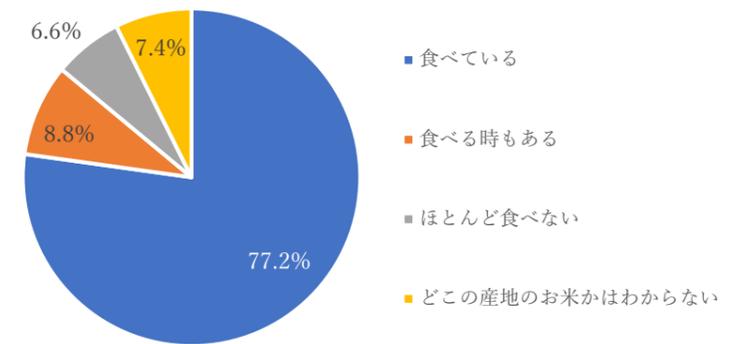


(その他意見)

・夕食は日本酒を飲むので、ご飯を食べない。お酒がご飯の代わりです。(40代・男)

③ お米を食べている方にお聞きします。大野市産のお米を食べていますか

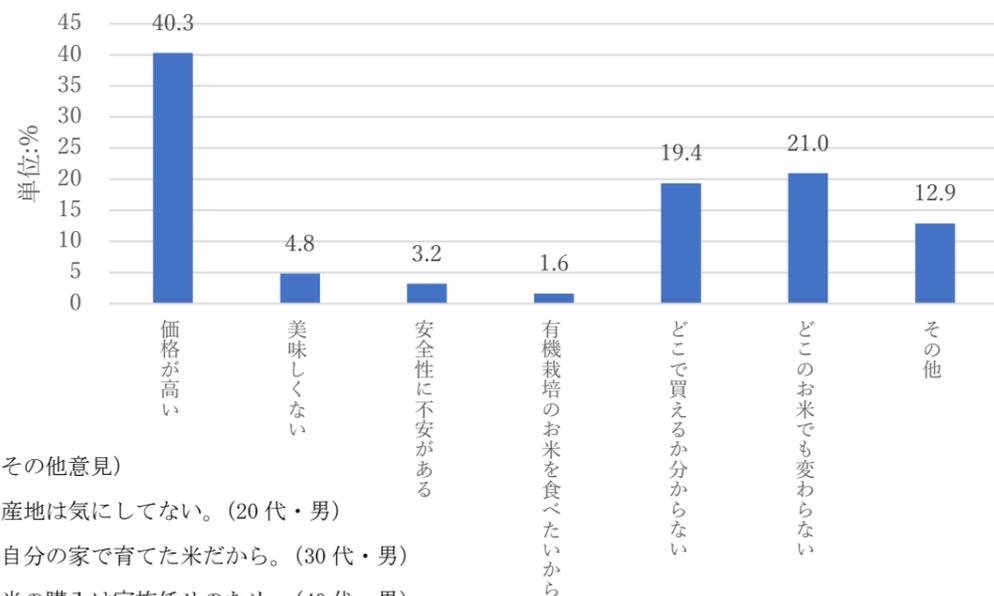
全体 (n=272)



④ 大野市産のお米を食べない理由

回答：③で「食べている」を選んだ以外の人 ※あてはまるもの全て

全体 (n=62)

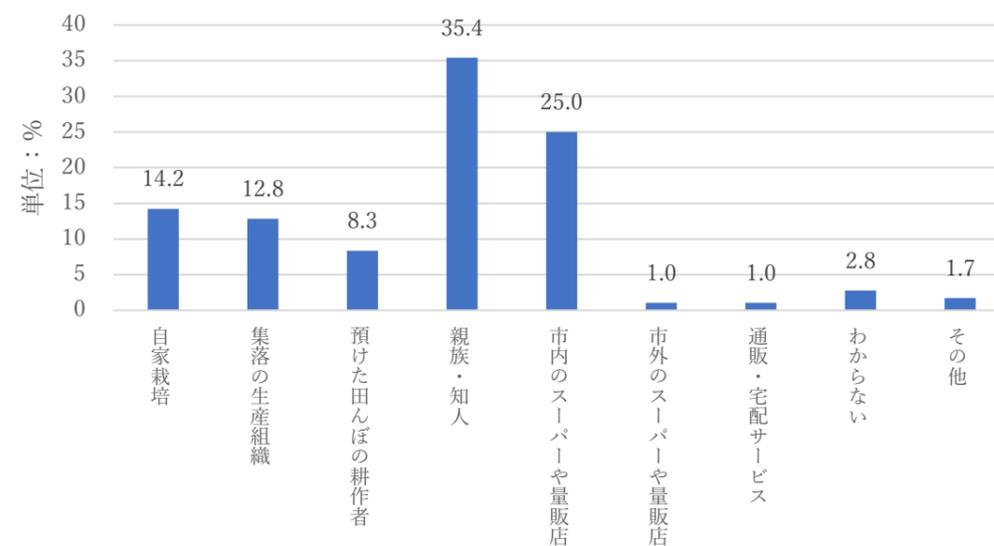


(その他意見)

- ・産地は気にしてない。(20代・男)
- ・自分の家で育てた米だから。(30代・男)
- ・米の購入は家族任せのため。(40代・男)
- ・県産米として買っている。(40代・女) ・いちほまれが好きだから (50代・男)
- ・下水の整備が整っていないで市内のお米など気持ち悪くて食べられません。(60代・女)
- ・2kg くらいしか買わないのでスーパーで2kg 袋を買っている。(60代・回答しない)
- ・スーパーで福井県産を買います。(70代以上・女)

⑤ 普段、お米はどこで入手していますか (もらっていますか) ※あてはまるもの全て

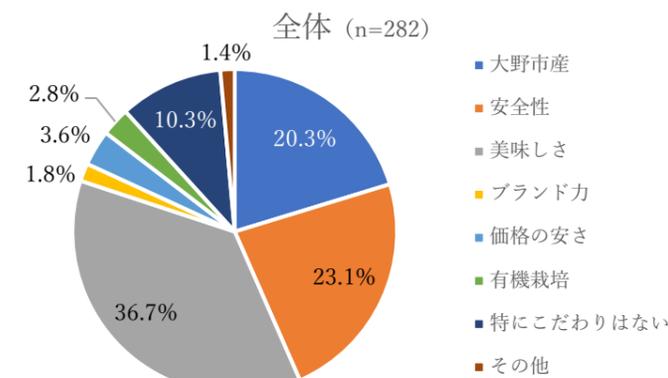
全体 (n=288)



(その他意見)

- ・食料支援サービス。(30代・女) ・アバンセ。(40代・男)
- ・お米屋さん。(計2者) (50代・女) ・道の駅。(60代・男)

⑥ 普段食べるお米に関して求めていることはなんですか ※一番重要なものと思うもの1つ

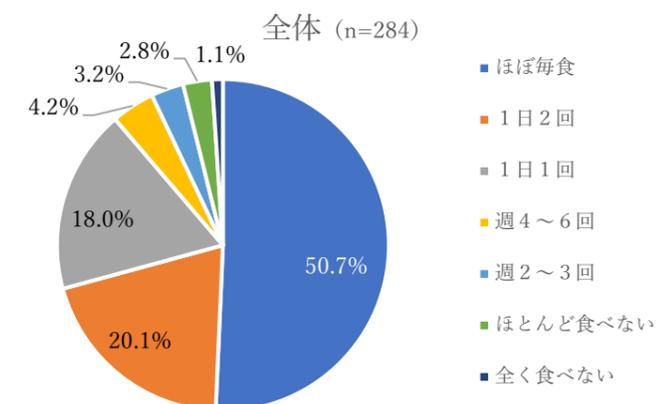


(その他意見)

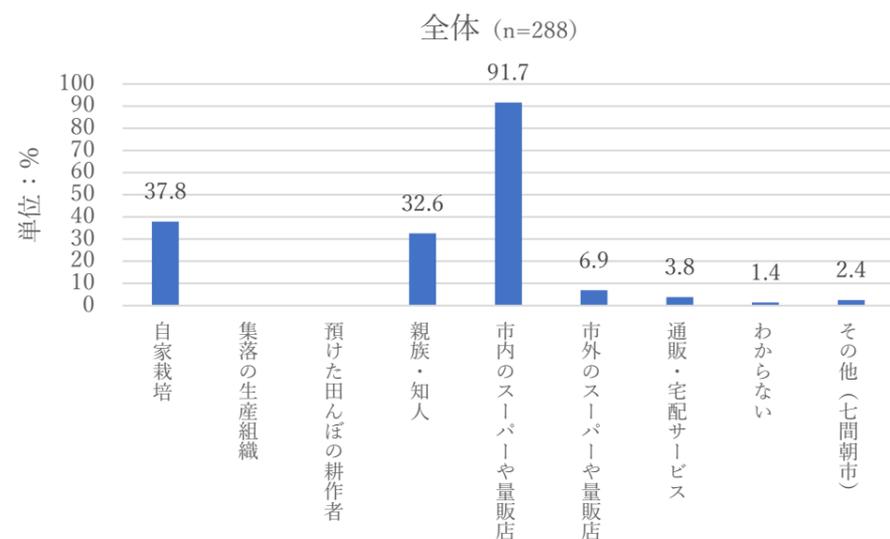
- ・自家栽培しているお米を食べること。(20代・男) ・自分の家で作ったものを食べている。(20代・男)
- ・耕作者を知っている。(30代・女) ・生産組合アバンセのお米。(70代以上・女)

地元産品の利用 (地産地消) について…野菜

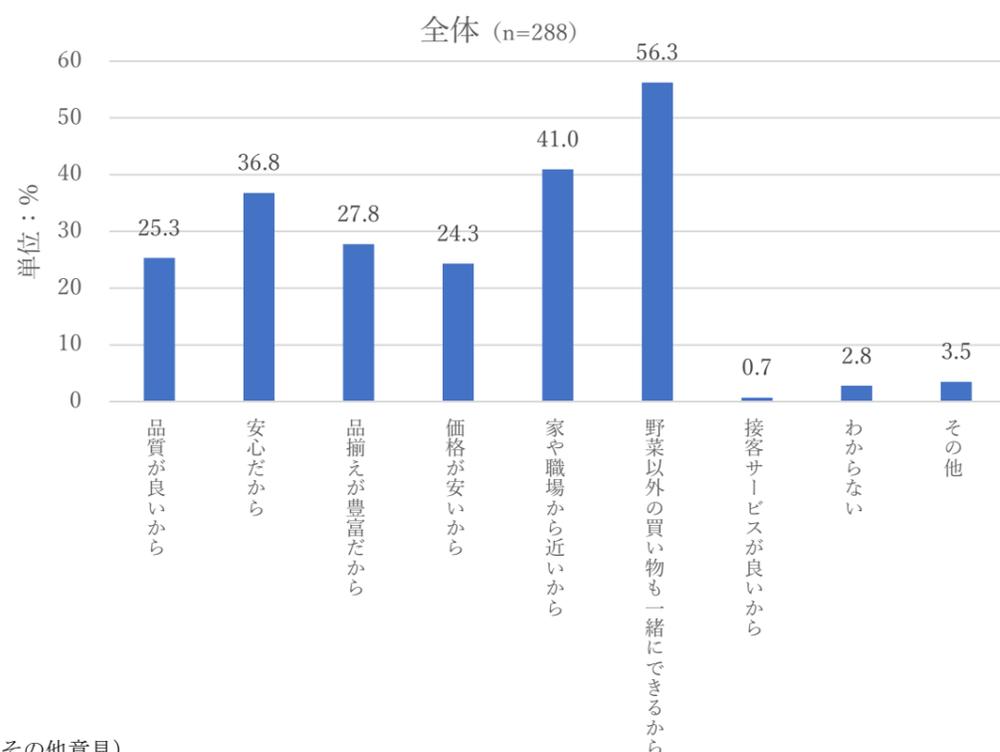
① 普段野菜を食べていますか



② 普段野菜はどこで入手することが多いですか ※多いもの3つまで



③ 上記で野菜を入手されている理由は何ですか ※あてはまるもの全て



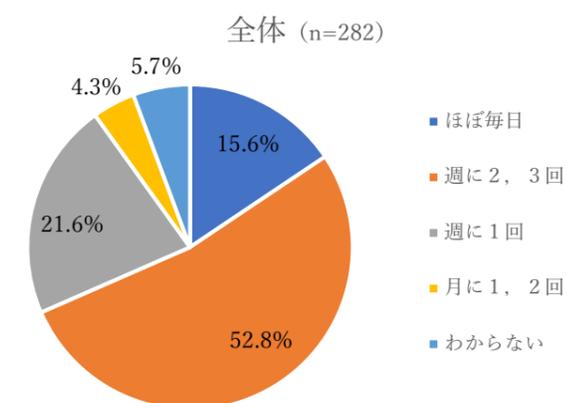
(その他意見)

- ・苦勞せずに直ぐに入手できる点。(20代・男) ・足りないものは購入するため。(40代・男)
- ・親戚等からもらえるから。(計3者)(40代・男) ・自家栽培の野菜を消費する為。(40代・女)
- ・買う所がそこだけだから。(50代・男) ・家にないものを買う。(60代・男)

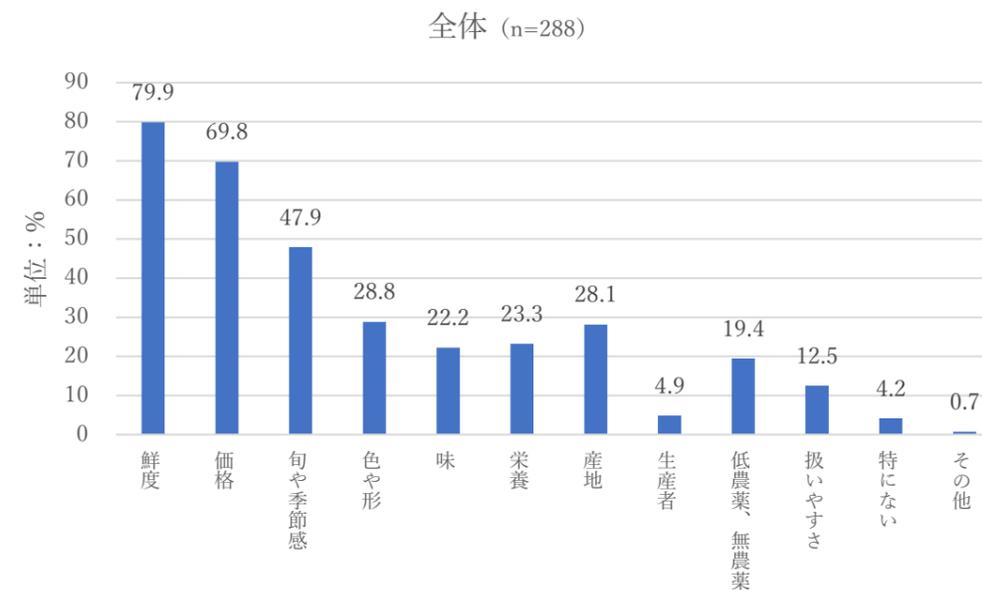
・考えても仕方ない、時間もなくて、近所のスーパーで購入。(60代・女)

・いただきものは無駄にせず、大事にいただきたい。旬の白米は豊富だから余ったり、くさったりさせないようにいただくことが大事だと思います。(70代以上・女)

④ 野菜を購入する頻度はどれくらいですか



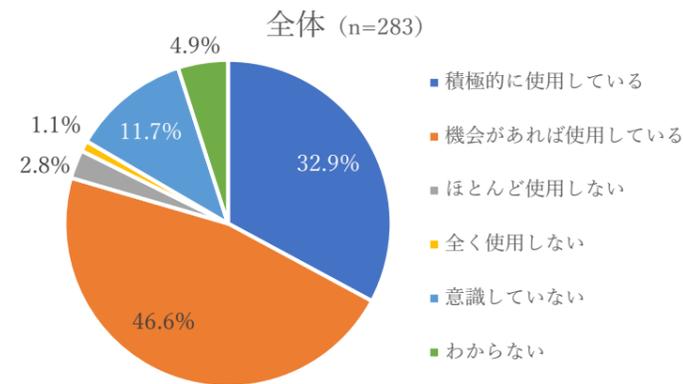
⑤ 野菜を購入する際に、どのようなことに注意して選んでいますか ※あてはまるもの全て



(その他意見)

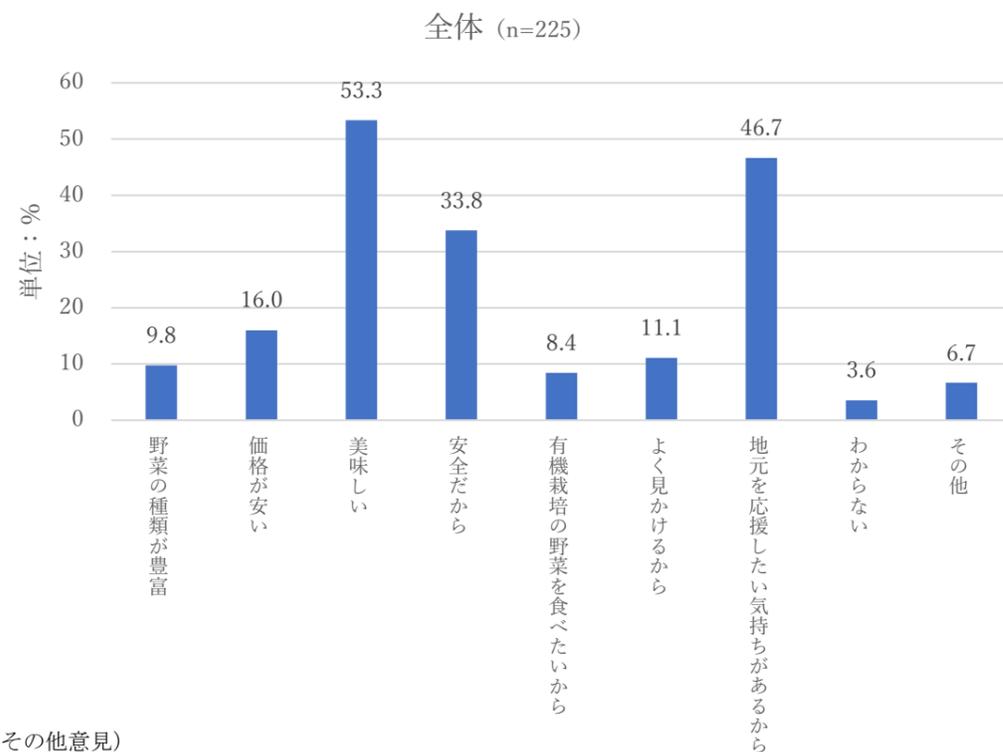
- ・自分で作っている野菜を殆んど使用。(70代以上・女)
- ・経済的なこともあるのであまりこだわらずにいただきたいと考えています。(70代以上・女)

⑥ 大野市産の野菜の使用について



⑦ 大野市産の野菜を使用する理由

回答：⑥で「積極的に使用している」「機会があれば使用している」を選んだ人※あてはまるもの全て

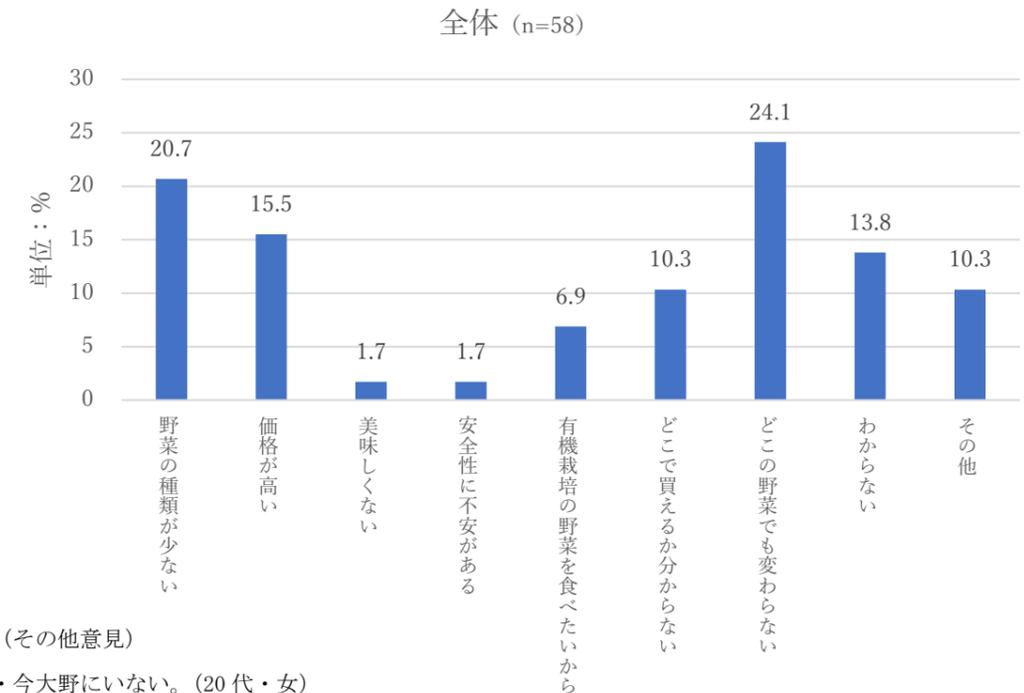


(その他意見)

- ・家族が栽培しているから。(20代・男) ・自家栽培しているから。(計2者)(30代・女・男)
- ・新鮮だから。(40代・女) ・自家栽培しているから。(40代・女)
- ・親戚等からもらえるから。(計3者)(40代・男) ・いただきもの。(40代・女)
- ・栽培しているから。(50代・男) ・親戚の方から頂く。(50代・男)
- ・自家栽培の野菜を使用。(60代・女) ・新鮮。(60代・男) ・スーパー。(70代以上・女)
- ・地元で作っていただけるものを大事にしたい。(70代以上・女)

⑧ 大野市産の野菜を使用しない理由 ※あてはまるもの全て

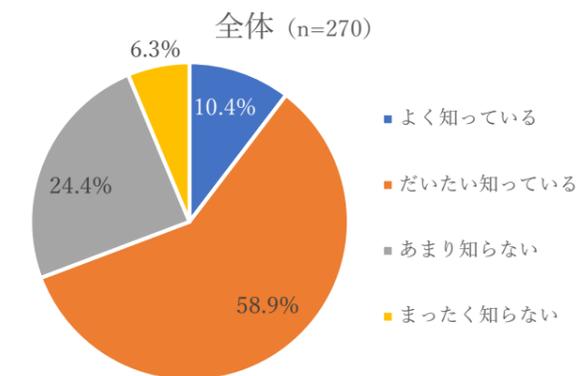
回答：⑥で「積極的に使用している」「機会があれば使用している」を選んだ以外の人



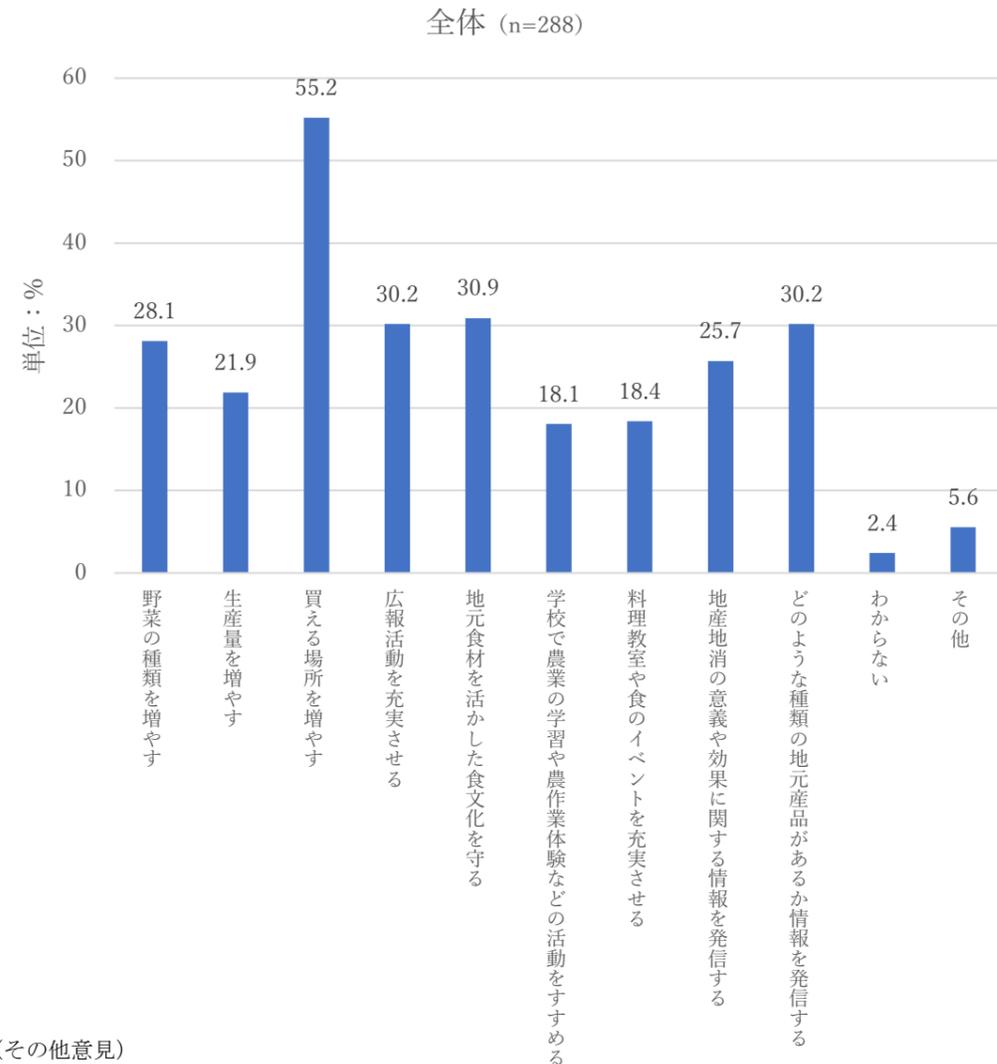
(その他意見)

- ・今大野にいない。(20代・女)
- ・産地を気にしてない。(20代・男)
- ・自家栽培だから必要な野菜は大抵県外産になる。(40代・男) ・親戚の方から頂く。(50代・男)
- ・ねんりん等に行ってもほとんど野菜もなく意味がない。(50代・男)
- ・年寄りの昔感覚で作る田畑の仕事を見ているから。畑で尿をしったり、痰を吐いたり、衛生面が不潔。(60代・女)

⑨ 大野市産の野菜の旬の時期をご存じですか



⑩ 地産地消のために、どんなことが必要だと思いますか ※あてはまるもの全て

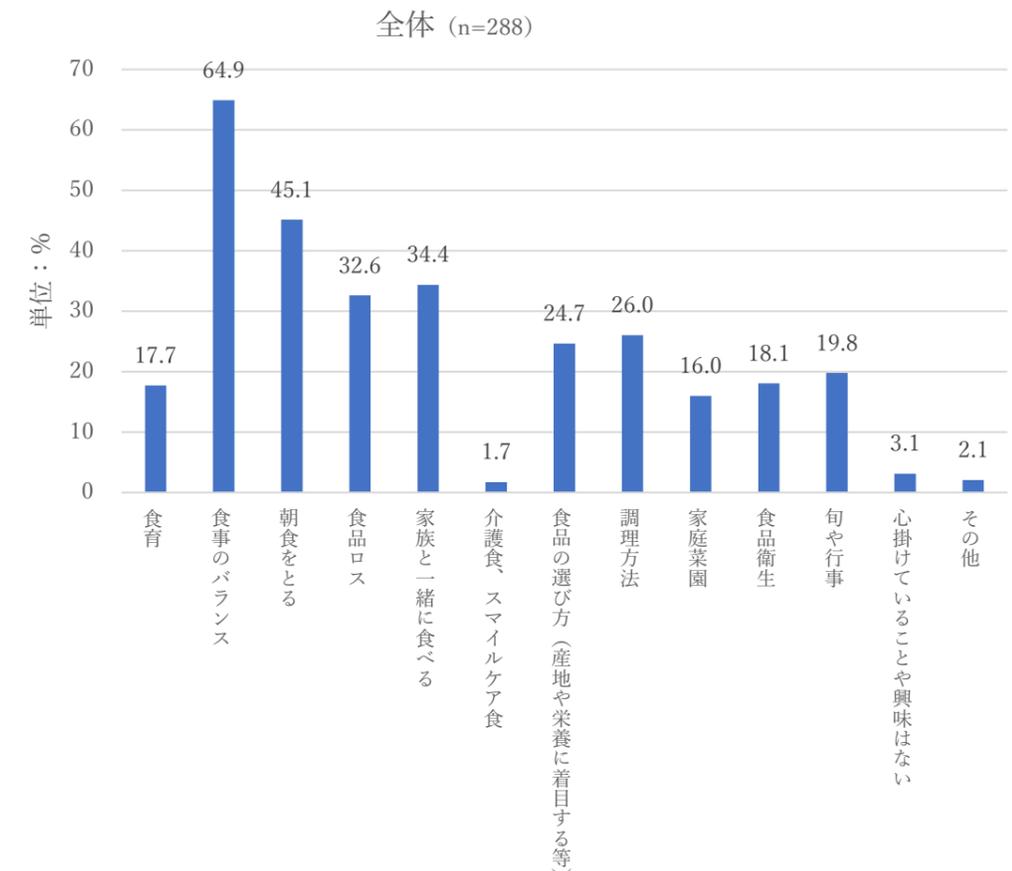


(その他意見)

- ・発信力のあるシェフなどを活用して地元の食材を使った料理をつくってもらおう。(20代・男)
- ・珍しい種類の野菜を食べ方と一緒に売って欲しいです。(20代・女)
- ・消費量を予測する。(30代・男) ・メリットが見当たらない。(30代・女)
- ・食べられればよいという人が多いのでその意識改革からだと思う。(40代・男)
- ・価格をおさえる。(40代・女) ・低価格での提供。(40代・男)
- ・加工品、新商品を作る。(40代・女) ・普段使いやすい、低価格でレアな野菜栽培。(50代・男)
- ・値段を安くする。(50代・男) ・価格を安くする。(60代・男)
- ・価格を他産地より安いか同等にする。(60代・女) ・価格が高い場合がある。(60代・女)
- ・価格をもっと安くしてほしい。(70代以上・女)
- ・もう少し値が安くなるとよい。(形が変形していてもよい) (70代以上・女)
- ・まず、大野市民の第一次産業を維持し、発展させることに大野市民が全面的に協力できるように、生産

- ・リウマチを患って、手で料理ができない。同居しているお嫁さんに作ってもらっている。(70代以上・女)
- ・年だから。(計2者) (70代以上・女)

⑧ 食について心掛けていること、興味があることは何ですか ※あてはまるもの全て



(その他意見)

- ・不自然な食品(添加物)、体質に合わないものを食べない。(30代・女) ・健康。(30代・男)
- ・発酵食品に興味があり、自ら麹などを作り、食に取り入れている。(60代・女)
- ・食べ過ぎに注意している。(60代・男) ・なるべく薄味にする。(70代以上・女)
- ・食事のバランス考えていますが、なかなかそのようにはいきません。(70代以上・女)